



門へ6
號5670
卷



心なき月夜に花月を思ふ
心なる雲月夜に花月を思ふ
此集の五編をばくも月夜に思ふ
おとちの心なる花月を思ふ
三編より一人の月夜に思ふ
を飾る

小の集をばくも月夜に思ふ





乙女川

糠塚



糠塚集五編

三秋亭湖雀著

まろくハねも強しや雲の中
名西を影ももつゆさふの月
草枕を枕もささぬ礎もゆ
静鈴のほや小舟に陸の舟ふ
更る程多しと子ぬや山の月
待宵の月を照るふむくさる

信植科新田

吉 良 孔 真 逸 史
奇 歌 左 明 喜 弄

手くり憶病もるねま
枝さぬ子不都あり秋の風
中けふももあや角力の美し
鹿鳴やまのもまぬ鳥 凡
風の音遠くもあぬ茂る風
三日月やや清の倍もあふの春
草のるある影さり赤 堂
あまふ月を戸りや麻の聲
気とよまて見ふと魚や稻の花

矢代

坂木女

戸隠

彌 天 英 丈 柳 玖 月 里 竹 窓 傾 西 蓬 國 王 池 醉 月

野を待て行もよ 軽くともふの風
 鳴くもねもあやふにふぬ 雨
 稲妻やおと林をせりき 川の口
 押さるる月 日経色お草ももたら
 白きもの垣へ 白ふ九 日 柳
 七夕や 並みて 白ふ 毎の音
 秋色山よあやして みる月夜
 春のあやも 吹くまを 更なる戸
 夢とらんぬ子り 終る色 花のまへ

上田生塚

清々 楚洞 百丈 千日 半休 泉瀧 歸年 李尺 貫申

さへこのまを 待て 何れに 草の花
 草や見て みるまを 終る色 花のまへ
 終るぬ月夜 みるまを 終る色 花のまへ
 何れに みるまを 終る色 花のまへ
 中へ 後ぬあや みるまを 終る色 花のまへ
 終るぬ月夜 みるまを 終る色 花のまへ
 春のあやも 吹くまを 更なる戸
 夢とらんぬ子り 終る色 花のまへ

上田新子

茂竹 谷雀 文雲 壽辛 高橋 雨聽 桐居 木遊 五調

まきとくし思ふ月もたつ移りぬ

上田新早

林霞

移りぬとくし思ふ月もたつ移りぬ

上田

芥翠

日やふやふ人の上もま后み月

羊山

柿の葉の影おきてまきとくし思ふ

易足

森中より内を移りぬとくし思ふ

鷹山

移りぬとくし思ふ月もたつ移りぬ

尚堂

清月の中より移りぬとくし思ふ

ぬ雲

移りぬとくし思ふ月もたつ移りぬ

碓月女

とや二日移りぬとくし思ふ山

積翠

上田大宮

三

眼の届くもあけいもたつ移りぬ

上田大宮

一窓

枯きその世もくやもや移りぬとくし思ふ

琴

氷の音遠くもあけいもたつ移りぬ

杭瀬下

雲松

世の中いもたつ移りぬとくし思ふ

春雀

福外や利根の白帆は風後不

文光

移りぬとくし思ふ月もたつ移りぬ

素雄

麻笛をきくもあけいもたつ移りぬ

自吟

かきまぬ世はいつかをきくもあけいもたつ

坂本

須雅

移りぬとくし思ふ月もたつ移りぬ

白田

月邦

あゝとての好い目かたをなするも
身の外人もとてあなをなするも
月の外人もとてあなをなするも
草の戸ハ子の戸もけよ初極
一ヶ由押出に凡の小さおれ
山一ツうえてく藤の咲く
茶島の端くくうわての川
此くくくくくく後くくくく

白田 白峯
浅野 思月
マユミメ 文鹿
相ノ嶋 梅温庄
飯山 古文
長沼 尺馬
一 皎々
嘸 左
四

きぬさやきふも一日あけぬ
まゝにおおてくあふ四ツも洞
猫も来まきも小魚も来
くけくくくの松も月見の
くるまきくくくくあふおれ
白魚のまきけくく氷の白魚も
晨明や薄くくくの小振舞
静くくくくくくくくく
水くくくくくくくくく

長沼 音春
花 斌
舞 孝
和 染
采 鵜
子 堀
春 甫
市場村 呂 白
抗瀬下 一 朗

此修年一終三月あきそ終るを
終るも予を深きの終朝朝
いよほまたに清く空もあきらむ
いよ多きまねのまきまき春の雨
更終や月よかきまきまきの終
良更て凡も雲も月々青
一日も下戸もまきまきまき
終るも日もまきまきまき見世
いよほまきまきまきまき

抗瀬下

長江

羽尾

既翠

戸部

楓錦

中村

醉々

赤田

紫藤

因田

春映

五

雪奇

赤田

鮮明

因田

紫鳳

名月や少くも多し観る
梅も少くも多し里の月夜
草も少くも多し春の終
山の終も少くも多し後の月
君も代や少くも多し此月
終りや少くも多し秋の終
空の月星見ても思ふ終
照りも少くも多し雨の終
月も少くも多し何の終

赤田

翠嶺

因田

鶴雄

縮荷山

月暮

縮荷山

松夢

赤田

雀羽

布施五明

竹摩

御幣川

布川

御幣川

雨往

御幣川

羊休

花と月を十六日も待てしわ

御幣川

菊手

真草月を重ねて重ねてふ

真柏

草のうらやまをうらやまの月

二ツ柳

金龍

月を花もあはれなる

山

牛堂

名を心明き女のたがひ

百

百河

ふもたを人におく

文

文水

山人裳けし了白の月見え

柳

柳圃

山の秋月あるを流るる

已

已枝

旅人いる上もふり来る月

六

明輝

算ひて嵐をく候後の月

山田

雀尾

海を舟へ渡してふり来る月

羽尾

帯笑

月を花もあはれなる

亀

亀歡

西の山もあはれなる月一板

其

其嶋

花のうらやまをうらやまの月

亀

亀明

名月やうらやまをうらやまの月

翠

翠鳥

楼を背中をうらやまの月

應

應春

曙をうらやまをうらやまの月

和

和光

月今宵のうらやまをうらやまの月

川

川司

日夕... 乃々... 月々... 哉
... 人...
... 月...
... 小舟...
... 大船の信...
... 山...
... 見...
... 松...
... 梅の月

細 日
春 朗
化 桂
桃 儿
夜 翠
蘭 溪
月 樓
吾 室
如 雄

七

急の... 乃々... 月々... 哉
... 明...
... 春...
... 月...
... 名...
... 月...
... 石の上
... 月...
... 乃...
... 乃...

細 逸 芳
上 菓 菊
平 春 溪
下 小 舟
駒 鳴 甫
沢 舜 中
金 藤 林
八 井 梧
二 石 倉
村 白 舟

往津ありきの泉も枯るも
西月や先もあつる降るの降
陸氷こころあつるや今月お
白むゆのこころあつるや今月お
系子伝言向の泉も枯るも
身の程の思ふこころあつるの月
美しこころあつるや今月お
雪のこころあつるや今月お
黄鳥や羽のこころあつるの月

見馬奇 南嶺
雷竹 四方丸
塩野 南中
八満 葛古
細撰 桑布
羽尾 冠山
江戸 伯夫
ハ 三桂
不仙

あつるこころあつるの月見
花のこころあつるや今月お
こころあつるや今月お
世の静さ年をこころあつるの降
るやこころあつるや今月お
降るや今月お
一昨日の月をこころあつるの雪
色をこころあつるや今月お
月雪の後のこころあつるや今月お

江戸 武石
俵田
儿峰
綾古
ちき
系三女
月古
呉翠
以吉

おもしろおもしろ林を空のけし

江戸

椿海

影をまはるおもしろく山月

碓嶺

昔跡ふくやの低き軒待ち

上毛坂本

久米崎

山里や未の九日も暮る

緑川

草の戸を閉ぢりや月を

魚毛

佛のまを気色も信ふを野

李城

障のまを梅のまを夜を

碓氷山中

松兄

庭のまを梅のまを夜を

歸春

とつとつ梅のまを夜を

魚鱗

九

花を人強もて日暮る

小諸

百株

花はさる空居を梅のまを

知古

庭のまを梅のまを朝を

巴水

送るまを梅のまを月影

志明

川風を梅のまを梅のまを

杖眼

中を梅のまを梅のまを

桃翠

暮るまを梅のまを梅のまを

雲溪

を梅のまを梅のまを梅のまを

魯恭

日影のくはらあふりては
まきりあふまきりては

小諸
継成

月の輝のやま集はては
うけもくもあはれあはれ

赤岩
水面

水うき草花のやま
はらあはれあはれあはれ

徑主
湖雀

ゆふもくもあはれあはれ

水音のふりあはれあはれ

春の月おき月の日はあはれ

十
寛椿
來溪

あはれあはれあはれあはれ

三民

黄鳥のあはれあはれあはれ

花明

長き月やあはれあはれあはれ

魯山

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

湖雀

あはれあはれあはれあはれ

魯茶

あはれあはれあはれあはれ

碓嶺

あはれあはれあはれあはれ

碓嶺

植のすゝむる日（お久）の田の定家
鳴るもつらぬるをいふはうた
出這入の掃く所の所より
あはれふさふさのこゝろ
日積るも三島とてふは
川々の水のはらふ云日月
用意は八景をいふは
若 藤 藤 氏 の 名 を 呼 ぶ
道 々 轉 と 持 出 山 道 々

上
雀 嶺 茶 雀 嶺 茶 雀 嶺 茶 雀 嶺 茶

うらやまの置巨鐘
水戸防風
花の木の人
ま〜〜まの永くぬり

雀 嶺 茶 雀 嶺 茶 雀 嶺 茶 雀 嶺 茶

1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910

